

2013年 1月30日  
 (平成25年) 水曜日/赤口



平井貴会長（左）が寺本眞一町長に  
 義援金を手渡し握手＝26日、那智勝  
 浦町湯川のホテルなぎさや

# 新熊野 聞野士 The Kumano Shimbun

那智勝浦町

## 被災からの学びを後世に 粉河ロータリークラブが義援金

紀の川市粉河の粉河ロータリークラブ（平井貴会長）は26日、那智勝浦町湯川のホテルなぎさやで例会を行い、寺本眞一那智勝浦町長に義援金10万円を手渡した。

この日の例会は那智勝浦町ロータリークラブ（庵野了嗣会長）が関西のクラブに同町を旅行などで訪れ、活性化してほしいと出した案内に添える形で実現。同ロータリークラブの7人と那智谷大水害遺族会会長の岩淵三千生さんも招かれ26人が集い、一昨年の紀伊半島大水害（台風12号）を忘れないと心を新たにしました。

寺本町長は義援金を受け取ると「災害は予測がつかない。分かっているても身近で起きなければ理解も難しい。災害は起こるべくして起こると考え、いち早く避難所に逃げる事を考えてほしい」と話した。

水害当日の経緯などを話した岩淵さんは「水害発生当時、町長や土木課の職員に直接話をする事が難しかったが、遺族会を設立する事で声を届けられるようになった。個々ではできない事でも団体では可能」と話し、地域復興のための団体をあらかじめつくっておくのも有効であると提案した。



例会の後、記念撮影